

## 先輩（役員）から



### 博修士会の過去・現在・未来

村中 徳明 (1974年修了 工学研究科)

(関西大学名誉教授・博修士会副会長(渉外・編集部長))

私は、1968年に関西大学第一高等学校、1972年に関西大学工学部電子工学科を卒業し、1974年に同大学大学院工学研究科修士課程電気工学専攻を修了しました。同年4月住友スリーエム(株)に勤務後、同年11月本学助手として着任しました。それから半世紀ほどたちましたが、今も関西大学名誉教授、博修士会役員として関西大学に所属させていただいています。私に取りまして、義務教育後は関西大学一筋に過ごしてきました。厳密に言いますと、関西大学からカナダのビクトリア大学ミラー教授の処に1年間在外研究員として行かせて頂きましたが、関西大学は私の母校そのものです。この母校愛を博修士会会員の皆様と生涯大事にしていけることを誇りに思っています。

博修士会の過去の活動を顧みたと、会員の皆様と共に寄り添って歩んで来れたのか疑問です。これまで総数25,500名を超える大学院修了生が誕生し、博修士会役員として会長コーナー(会長、会長代理、副会長、顧問・相談役など19名)、常任理事・監事(副部長27名)、理事(44名)の名前を連ねていますが、一般の正会員、名誉会員、院生会員の関心は薄く、会報で情報を得る程度と思われる。これはとても悲しい状況です。(博)修士会が設立された当初の目的は何だったのでしょうか？

修士会年譜を遡りますと、1952(昭和52)年3月31日関西大学大学院修士課程第1期修了生55名の修士記授与式終了後、恩師をまねいて謝恩会を開き、その席上で関西大学修士会を結成、会則承認可決。名誉会長に、学長・大学院部長岡野留太郎先生を推戴、会長・宮田輝穂、副会長安橋貞夫、同藤井昭三を選出、関西大学修士会 会則・会員名簿発行とあります。この会則第2条では「本会は、会員相互の交誼を厚くし、学術研究に資し、母校関西大学大学院の隆盛を図ることをもって目的とする」。第5条では「本会には、正会員と名誉会員とをおく。1. 正会員は、関西大学大学院修士課程および博士課程前期を修了したもの 2. 名誉会員は、関西大学大学院の教職にあるもの」と謳われています。第2条の目的における会員相互の交誼とは、恩師である名誉会員と院修了生の正会員間の

親睦・交友であり、学術研究に資しとは、名誉会員・正会員が研究科・院生の自由な発想と研究意欲を源泉として行う知的創造活動を支援・補助することだと思われます。後に、第5条の会員に、入学が許可され学籍を有する院生会員を加える改正が行われましたが、これらの会員間の学術的交流および院生などに対する研究費支援制度など重要課題のいずれも、博修士会の貧困な財政の現状から実現に至っていません。さらに、個人情報保護法により4年ごとの会員名簿が発行できず、博修士会から新任の大学院教職員方に博修士会の存在および名誉会員になられたことを知らせる機会がなく、博修士会を知らない名誉会員がほとんどです。そのため、博修士会活動を支える終身会費納入を勧めてくださる先生方は少なく、終身会費納入率は停滞気味です。博修士会設立者は、修了後も母校愛を大切にしている体育系OB・OG会のように気さくに過去・現在・未来の修士・博士が分野・世代・国境を超えて交流できる校友会組織を想定されていたと思います。

博修士会は、一昨年(2022年)3月31日に70歳の誕生日(古希:祝い色 紫)を迎えることができました。この70周年を記念して、上述の目的を達成するため、大学院研究科、特に院生との関係強化に重点を置き、院生協議会主催の院生合同学術研究大会の一環として大学院研究科の大きな青空に、虹色の橋を架ける「院生選抜ポスター発表コンクール」を企画いたしました。院生合同学術研究大会担当の事務局、学校法人関西大学並びに大学院教育職員(名誉会員or正会員)の協力支援により、2022年11月26日第1回開催まで辿り着くことができました。2023年9月30日第2回「院生合同学術研究ポスター発表大会(改名)」を終え、2024年度9月21日(土)第3回を準備中です。参加費無料ですので、母校愛がまだ消滅していない会員様は、是非現役院生の学術研究に触れ、コミュニケーションを通じて、院生時代を回顧してみませんか。若返りますよ。最後に、会長コーナーの高齢化で早急に後継者育成が必要です。今後の発展を若い理事に委ねたく、理事会、総会・学術講演会へのご参加をお待ちしております。